

五戸町商工会行動プラン

～テーマ：五戸町と新郷村の商業と観光振興による地域経済の好循環と雇用創出～

(1)商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

本会は五戸町、新郷村を地区としているため各項目について町村ごとに記述する。

○自地域の総括的概要と現状課題

【五戸町】

五戸町の人口は現在約1万5千人である。基幹産業の農業は米、長芋、にんにく、りんごが盛んである。産業構造は三次産業が半数を占め一次及び二次産業が20％台であり、雇用の多くを三次産業に依存している。中心商店街は空き店舗が目立ち、経営者の高齢化や後継者不足が加速、工業団地の製造品出荷額は近年は横ばいで人手不足も懸念されている。観光面では、地域産品はあるものの認知度は高くなく、宿泊施設の受入体制などが十分ではないため滞在型観光が弱く、地域経済への波及効果は大きくない。町は「第2次五戸町総合振興計画後期基本計画」で『人とまちの活力で未来を拓く、共創(協創)の郷 ごのへ』を標ぼうし、「五戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期)」にある施策に取り組んでいる。

【新郷村】

新郷村の人口は現在約2千人である。基幹産業である農業を含む一次産業は、産業構造の約半数を占めており、主産物は米、長芋、にんにくがあげられる。また林業は、森林資源が村面積の約8割にのぼるものの収益性が高いとは云えない。業種を問わず経営者の高齢化がすすんでおり、事業後継者不在の声も聞かれる。村内に観光施設は点在するものの冬季間の閉鎖があるなど、観光面の魅力向上や施設利用の促進策が十分とは云えない。また、就労の場を求め八戸市や十和田市への通勤者が増加傾向にある。村は、「新郷村総合計画」で『未来へ残す、未来を創る この地・この人・この文化』を掲げ、「第2期新郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」では“特産品を活用した農産物のブランド化”、“地域資源を活かした関係人口の拡大”を産業分野の施策としている。

○人口動態

【五戸町】

人口は、過去20年ほどで約23％(4千8百人余り)減少しており、2045年には1万人を割り込み約9千3百人との推計がでている。また、高齢化も進み20年ほどで労働者人口は約63％減少、65歳以上の人口割合も約20％増加となり、今後も進むことが想定される。

【新郷村】

人口は、過去20年ほどで約34％(1千人余り)減少しており、2045年には約1千1百人まで減少するとの推計がでている。また、高齢化も進み20年ほどで労働者人口は約68％減少、65歳以上の人口割合は約16％増加となり、今後も進むことが想定される。

○商工業者や小規模事業者の動向(本会地区全体(五戸町・新郷村))

過去20年ほどで商工業者数は約26％(202者)減少、ほぼ小規模事業者である。本会独自調査では年率換算で1.7％減少となり、10年後は429者へ減少する見込みである。

	H13	R3	対比増減	年率換算	R6	R15	R6比
商工業者	788	586	△202	△1.3％	578	514	△64
小規模事業者	665	489	△176	△1.3％	483	429	△54

○その他産業構造など特記事項

【五戸町】

約700mにわたる本町地区中心商店街では、ビックリ夜店、五戸まつり、産業まつり(五戸三大肉フェスタ)、まける市などのイベントが開催されている。八戸市や十和田市へは車で30分圏内であり、買回り品や専門品を中心に両市に依存している。町内には道の駅の新設構想や五戸高校跡地への八戸学院野辺地西高校の移転構想があり具現化しつつある。

【新郷村】

国道454号沿線の間木ノ平グリーンパークや道の駅しんごう、キリストの里公園では、キリスト祭り(春)やミステリーキャンプ(秋)が催され、全国からコアなファンが集まる。最寄り品は五戸町、買回り品や専門品は八戸市や十和田市などに多くは村外に依存している。

(2)重点推進施策

○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、五戸町と新郷村の商工業者の持続的発展・成長のため、商業と観光振興による地域経済の好循環と雇用の創出、そして地域資源の活用と関係人口の拡大を図ることで、地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献します。

○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・他の支援機関と連携した創業、事業承継及び雇用機会確保に関する支援
- ・地域内経済の好循環または住民のライフインフラ維持に資する取り組み
- ・地域(観光)資源を活用した関係人口の拡大と販路開拓支援の強化

(3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

支援項目	創業支援	事業承継	経営革新計画	経営力向上計画
現在値	5 件	4 件	0 件	0 件
目標値	9 件	9 件	5 件	1 件
支援項目	持続化補助金	経営計画策定支援	経営改善普及事業	マル経融資・件数
現在値	2 件	2 件	1,391 件	4 件
目標値	14 件	25 件	2,028 件	12 件
支援項目	マル経融資・額	記帳継続指導	記帳機械化	労働保険
現在値	10,500 千円	42 件	90 件	118 件
目標値	56,496 千円	90 件	41 件	247 件

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

○上記以外の具体的な取り組み

- ・創業、事業承継や雇用機会確保のためのセミナーや永年勤続表彰の実施
- ・中心商店街などの活力維持のための売り出しや商品券事業の取り組み
- ・新郷村の人口減少に起因するライフインフラの維持に向けた調査・協議・提案
- ・地域資源、観光資源を活用した特産品や回遊ルート、受入体制の検討

(4)実施し得る体制(環境)

○あるべき体制

現在、本会は五戸町の本所、新郷村の支所の各商工会館を拠点として、事務局長、経営指導員3名、補助員2名、記帳専任職員3名の計9名で運営している。2行政区域を所管するため各行政施策やニーズを捉えた事業を展開しなければならない。当面、事業者支援体制や財政運営に大きな変化は見込まないものの、地域経済振興事業を含む事業を将来にわたって安定的に継続するには補助対象職員以外のマンパワーや関連予算の確保とあわせ、支所の会館老朽化に伴う修繕などの支出等に備えるなどの財政基盤の強化が必要である。

(5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないため、現事業者支援体制は維持されるが、本会の財政シミュレーションによれば将来的な財政構造にやや懸念があるため、業務効率化や省力化とともに本所と支所の業務体制や連絡網について合理化策を検討し、財政改善策等について3年以内にその方向性を示す。

(6)特記事項

○町及び村との協調体制の確立と安定的な支援の継続

五戸町が掲げる『人とまちの活力で未来を拓く、共創(協創)の郷 このへ』及び新郷村が掲げる『未来へ残す、未来を創る この地・この人・この文化』にむけた各種施策を通じた産業振興に本会が取り組み、その効果を十分発揮するには、安定的に遂行し得る体制が必要不可欠である。そのため、町及び村との連携や協調体制を強化し、商工会に対する安定的な支援(予算)の確保について確実なものとするため、両当局や議会との懇談会を通じて、両当局や議会に対して本会及び本会が取り組む事業について一層の理解を求めている。